

# 尼崎郵便局の歩み

前島密氏の発議によって、明治4年、東京～大阪間で官営の郵便事業が開始。これに伴い、創業当初は東京・京都・大阪に政府直轄の「郵便役所」が設置され、東海道の各宿駅には民間の協力で「郵便取扱所」が置かれました。しかし、流通面から見れば、全国的に局数が絶対的に不足していました。そこで政府は、地元の名士から土地と建物の一部を無償で提供してもらい、代わりに彼らを「郵便取扱役」に任命して準官吏の身分を与えました。この施策が見事に当たり、地域の名士の屋敷を拠点とした「郵便取扱所」が短期間のうちに全国津々浦々にまで広がりました。このようにして、日本の郵便制度は急速な発展と普及を遂げたのです。

ここ尼崎においては、明治4年12月5日「尼ヶ崎郵便取扱所」として開設されたのが、郵便事業の始まりです。創業当初に設置された「郵便役所」は明治6年に「一等郵便役所」に改称されました。「郵便取扱所」については、明治7年「無等郵便役所」となりました。よって「尼ヶ崎郵便取扱所」は「尼ヶ崎郵便役所」に改称されました。そして、その翌年には全国の「郵便役所」は「郵便局」へと改称され、一等から五等に区分されることとなり、「尼ヶ崎郵便局」は四等にランク付けされました。尼ヶ崎郵便局は、明治18年に貯金取扱を、明治21年には為替取扱を開始し、さらに明治26年には「尼ヶ崎郵便電信局」(右資料)となって、電信業務も扱うなど、経営を多角化していきました。明治36年、通信官署官制の施行に伴い、郵便局・郵便電信局・支局などのすべてが『郵便局』に統一されることになって、再び元の「尼ヶ崎郵便局」に名称を変えました。そして、大正5年には「尼ヶ崎郵便局」から現在名の「尼崎郵便局」に改称されています。大正11年、等級を三等から二等に改定されました。(右資料)

昭和13年、尼崎市長洲に保険分室を設置(下資料)しましたが、6年後には分室廃止となりました。昭和17年、尼崎市南城内から現在の昭和通二丁目に移転し、さらに昭和31年には局舎を新築しました。昭和42年以降は、東海道線以北の地域の集配業務を新設の尼崎北郵便局に移管しています。

平成19年は、民営化に伴い併設された郵便事業尼崎支店に一部業務を移管し、平成24年日本郵便株式会社発足に伴い、郵便事業尼崎支店を尼崎郵便局に統合し、現在に至っています。



電報電話を利用する女性

◎通信院告示第五百四十五號  
昭和十九年十二月十日限り左記郵便局分室ヲ廢止セヨ  
昭和十九年十二月十九日  
郵傳院總裁 塙原時三郎  
名 稱 位 置  
尼崎郵便局貯金保険分室 尼崎市長洲

昭和13年、保険分室を設置、6年後には分室廃止

◎逓信省告示第三千四百六十七號  
昭和十三年十一月六日ヨリ左記郵便局分室ヲ設置シ尼崎郵便局ニ於ケル簡易生命保險及郵便年金事務ヲ取扱フ  
昭和十三年十一月四日  
名 稱 位 置  
逓信大臣 永井柳太郎  
尼崎郵便局保險分室 尼崎市長洲

官報告示「尼ヶ崎郵便電信局」

逓信省告示第五十七號  
本月二十一日ヨリ左ノ郵便局ニ電信取扱ヲ開キ郵便電信局トス  
明治二十六年二月十七日  
逓信大臣 伯爵黒田清隆  
官報 第二八八八號 明治二十六年二月十七日

國郡名	舊稱	新稱
德津國豐島郡	池田郵便局	池田郵便電信局
德津國川邊郡	伊丹郵便局	伊丹郵便電信局
德津國川邊郡	尼ヶ崎郵便局	尼ヶ崎郵便電信局
武藏國南埼玉郡	岩槻郵便局	岩槻郵便電信局

尼崎郵便局 尼崎市尼崎町 三等 二等  
◎逓信省告示第四百十七號  
明治四十年四月逓信省告示第二百二十三號別表第二號  
中大阪逓信局管轄ニ左記郵便局ヲ追加シ大正十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス  
大正十一年七月二十九日  
逓信大臣 子爵前田利定  
尼崎郵便局

尼崎郵便局 懐かしの光景

各写真は上坂部小学校所蔵



昭和31年完工 尼崎郵便局 旧局舎



郵便車から積み出し



仕分け作業



消印押し



区分け



かごに分別



区分される前の郵便物



区分された郵便物 堺市・京都市など



速達区分 大阪中央・東京都区など



区分棚に仕分ける



郵便袋を閉める



タグの確認



バイク便発着場 8台



自転車で配達 手渡し



塚口駅前 郵便車



混雑する郵便局窓口